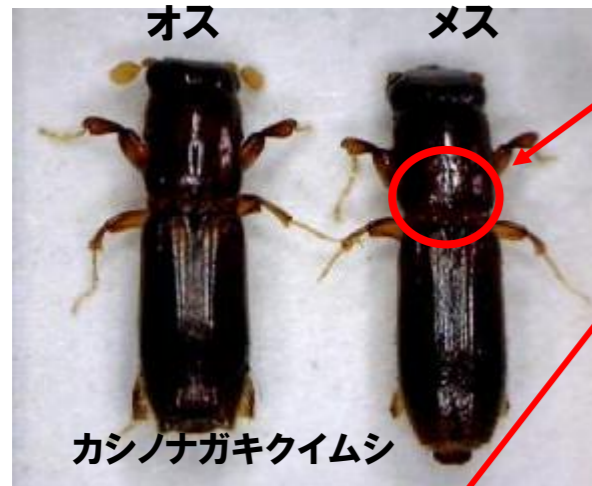


わからない生きものがあったら、自然遊学館へきいてください

貝塚のサクラ(モモ、ウメ)、ブナ科の樹木が危ない

全国的に樹木を枯らす害虫が増えています。貝塚市内でも被害がありました。(下の写真は本年7月の市民の森で発生したカシノナガキクイムシによる被害です)一つは「カシノナガキクイムシ」がナラ類カシ・シイ類などのブナ科の幹に入っていきます。



メスの背中のくぼみにナラ菌をのせて木の中に運びます。この菌が増殖し、木を枯らしていきます。

カシノナガキクイムシが木に穴を開けたあと

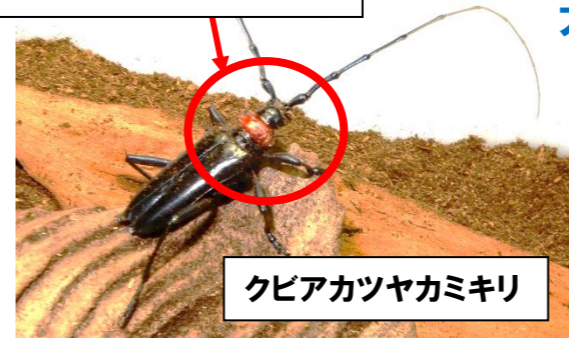
木の内部の水分が移動できなくなり、穴から外へ樹液が出ます。糖分が発酵し、酸っぱいにおいがすることもあります。



樹木の中で産卵され、幼虫は成長、羽化し、翌年6月ごろナラ菌を持って新たに健全な樹木を探し、穴をあけて入っていきます。

もう一つの害虫は「クビアカツヤカミキリ」です。

頭部の下が赤く、からだ全体が黒く光沢がある



クビアカツヤカミキリ

サクラ、モモ、ウメなどのバラ科に発生し樹木を枯らします。大阪府内でも被害の拡大が続いています。

樹皮の割れ目に産卵し、孵化後樹の内部に入り、幼虫として1~3年間過ごします。その際幼虫が排出する「木くずとふんの混合物(フラス)」が樹木の幹や根から出てきます。

今月貝塚市内で撮影されたものです。穴からウドン状のフラスが出ています



フラスが大量に出て、たい積している場合もあります。



6月ごろ成虫が脱出したあなその後、他のサクラなどに産卵し樹木の内部で活動し、樹木が衰弱し、枯れていきます。

法律で、飼育、保管、運搬などが禁止されています

公園や道ばたなどでクビアカツヤカミキリの成虫を発見した場合は、活動が広がらないよう、大人の方はできるだけ駆除をしてください。

成虫を見つけた際の駆除の方法や詳しい説明は、大阪府のホームページをご参考にしてください。

大阪府ホームページQRコードです

